

おおだて 市立総合病院・市立扇田病院 病院だより 第35号

おおだて病院だよりは、
市民・患者さんと
市立総合病院・市立扇田病院を
つなぐ広報誌です

2021.12

No. 35

発行者：大館市病院事業管理者 吉原 秀一
編集：大館市立総合病院 広報委員会
住所：大館市豊町3-1（総合）
大館市比内町扇田字本道端7-1（扇田）
電話：0186-42-5370（総合） 0186-55-1255（扇田）
URL：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>（総合）
<http://www.oogita-hp.jp>（扇田）
印刷：(有)菅原印刷



今年も冬が はじまります ———

(写真提供：大館シャイニングストリート実行委員会)



大館市病院事業管理者
市立総合病院長

吉原 秀一
よし ほう しゅう いち

暑い季節もいつの間にか収まり、冬を迎えようとしています。

さて、これまで大館市立総合病院長として、このコラムを担当してまいりましたが、前大館市病院事業管理者 佐々木睦男 退任の後を引き継ぎ、本年10月より病院事業管理者を拝命いたしました。今後は市立総合病院のみならず市立扇田病院ともども、市民の皆様にあいさす、頼られる医療機関を目指し今後も頑張つてまいりますのでよろしくお願いいたします。

本年4月から循環器内科において心臓カテーテル治療が開始され、本年10月から24時間体制で治療が可能となり順調に稼働しております。これにより当医療圏で治療が可能となる地域完結率は95%となり、ほぼすべての疾患に救急対応が可能となり、市外、特に弘前市、秋田市に救急搬送する件数が激減し、市民の皆様の命を地域で守ることが可能となりました。これからは病院機能の充実と安定に寄与してまいりますので、市民の皆様のご協力をお願いする次第です。

新型コロナウイルス感染症については全国的に一段落の状態ですが、幸い大館市では一人の死亡者もなく数名の中等症者が発生したのみでおおむね制御されている状況です。これはコロナワクチンの早期で高率の接種が功を奏したものと考えております。8月での接種終了と全住民に対する接種率84%は国内でも最速、最高のものと考えます。また死亡者0人も秋田県27名、国内1万8千名の死亡者に比べ非常に少なく、ワクチン接種の高い効果とされます。これも市内全域の医療関係者の協力とワクチン接種に対する市民の皆様方の高い見識があればこそ感謝しております。今後も3回目の接種を来年春頃に計画しておりますので、その際は皆様のご協力をお願いいたします。

今年の不安はインフルエンザウイルスへの感染です。過去2年間大きな流行がなかったために、今年は大きく流行することが予想されています。早めにインフルエンザワクチンを受けていただくとともに、これからも油断なく手洗い、うがい、マスクや三密を避ける感染防御行動は継続して行わなければならないと考えます。是非これからも市民の皆様におかれましては、感染対策を継続していただき、新型コロナウイルス感染症もインフルエンザ感染症もない冬を過ごしていただければと思います。

病院職員採用試験のお知らせ

市立病院（総合病院、扇田病院）では、職員の採用試験（第1次）を行います。

合格者は令和4年4月以降に採用予定です。

- 【募集職種】
- ・看護師
 - ・診療放射線技師
 - ・診療情報管理士

- ①第1次試験日：令和3年12月19日（日）
（第2次試験は第1次試験の合格者に対して行います）
- ②試験会場：大館市立中央公民館
- ③試験内容：SPI3（性格検査及び基礎能力検査）
- ④採用予定数：若干名
- ⑤受付期間：11月19日（金）～
12月9日（木）まで

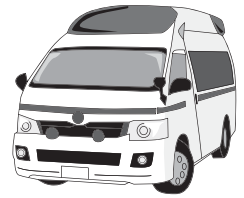
申込み・お問い合わせ
大館市役所 総務部 職員課 職員係
Tel.0186-43-7029

詳しくは総合病院または大館市ホームページをご覧ください。

総合病院：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp/>

大館市：<https://www.city.odate.lg.jp/>

24時間体制の「緊急PCI」を開始しました



生活習慣病（高血圧や糖尿病など）や加齢により、心臓に栄養や酸素を送る血管（冠動脈）の動脈硬化が進行すると、狭心症や心筋梗塞などの重大な病気を引き起こしやすくなります。

PCIとは、手首の血管や足の付け根の血管から、カテーテルと呼ばれる細い管を入れ、バルーンやステントといった器具で狭くなったり詰まってしまった冠動脈を広げ、血液の流れを良くする治療法です。体に大きな傷をつけることはなく、局所麻酔で治療することが可能なため、患者さんの負担が少ない新しい治療法です。

これまでは心筋梗塞の患者さんを遠方の病院へ救急搬送していましたが、10月からは総合病院でも24時間体制での緊急PCIを開始しました。

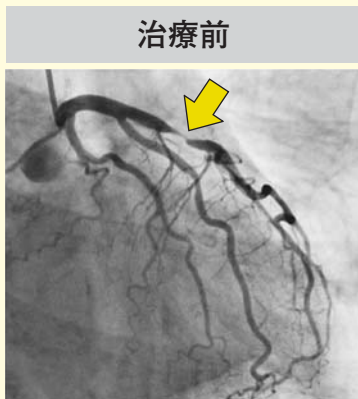
※「PCI」～経皮的冠動脈形成術

《主な症例》

●「狭心症」(きょうしんしょう)

動脈硬化の進行により冠動脈が狭くなり、心臓に十分な栄養や酸素を送り届けることができなくなる病気です。

運動した時など、心臓に負担がかかる時に胸の痛みや息切れを感じる場合があります。

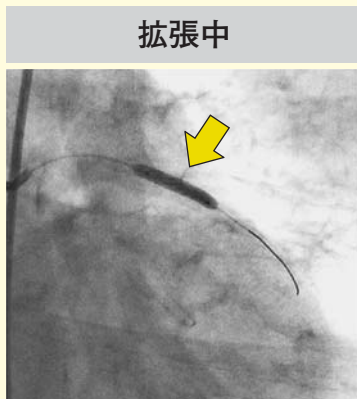


治療前

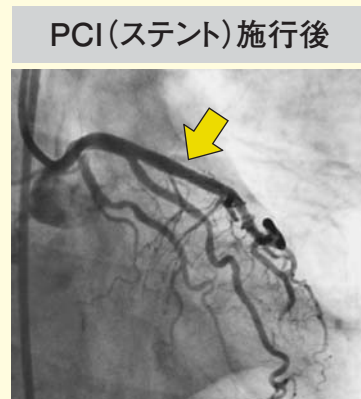
●「心筋梗塞」(しんきんこうそく)

冠動脈がコレステロールの塊や血の塊（血栓）で完全に詰まってしまい、血流が途絶えることで心臓の一部が壊死してしまう病気です。

冷や汗を伴うような激しい胸の痛みが持続することが多く、早急なカテーテル治療が必要です。



拡張中

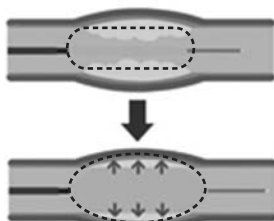


PCI(ステント)施行後

※出典「インフォームドコンセントのための心臓血管アトラス」

《バルーンによる血管形成》

*バルーン：風船



①バルーンを細くなった（あるいは詰まった）箇所まで運びます。



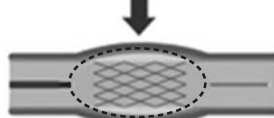
②バルーンを膨らませることで、血管を拡張します。

《ステント留置》

*ステント：網目状の金属の筒



①ステントを詰まった箇所まで運びます。



②バルーンを膨らませることでステントを留置します。

【血管撮影装置】



この装置で血管を確認しながら治療を行います。

『オンライン面会』をご利用ください

オンライン面会とは…

総合病院では、現在、新型コロナウイルス感染症対策のため患者さんへの面会を禁止としています。入院患者さんにご家族の不安を軽減し、少しでも面会の機会を設けられるよう、タブレット端末を利用した面会を行っています。

患者さん

原則各病棟のデイルームで看護師が付き添い機器を操作します



面会者

自宅などの通信環境の良い場所

無料通信アプリ
スカイフォン
「SkyPhone」を使用



※データ通信料が発生します

オンライン面会について

- ① オンライン面会は、入院患者さんと同居のご家族などのみとします。原則患者さん1名につき1名となります。
- ② ご面会は予約制です。詳しくは総合病院のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。
- ③ 病棟ごとに面会できる曜日と時間が違いますのでご注意願います。
- ④ 面会の日時を調整するため、お早めにお申し込みください。
- ⑤ 1回の面会時間は10分程度とします。
- ⑥ 面会の回数は、入院期間中2回までです。
- ⑦ 端末はオンライン面会専用のため、医師との面談や病状説明などは行いません。
- ⑧ 患者さんの病状により面会ができないこともありますので、あらかじめご了承ください。

申し込み・
お問い合わせ

専用電話 0186-42-5367

Eメール chiikirenkei519@odate-hp.odate.akita.jp

◎利用時の詳しい説明については、患者サポートセンターでご説明いたします。ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

検温のお願い

総合病院では、正面玄関と北口玄関に、サーマルカメラ（体温がわかるカメラ）を設置しています。発熱(37.5℃以上)が確認された場合は、①番窓口の新患受付にお伝えください。また、消毒液も設置しておりますので、是非ご利用ください。

来院されるかたや入院中の患者さんが安心できる院内環境のために、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【正面玄関】



顔を認識すると枠と体温を表示します。
(画像は想像図です)
通常は黄色ですが、
37.5℃を超えると
赤文字になります。

【北口玄関】



入院時の新型コロナウイルス検査について

総合病院では現在、入院する場合に「新型コロナウイルス検査」を行っています。ただし、入院しようとするかたが次のすべてに該当する場合は、主治医の判断で検査を不要とします。

- ① 県内在住者
- ② ワクチンを2回接種済み
- ③ 発熱等の症状がない
- ④ 2週間以内に県外往来者との接触がない



※1 ワクチンの接種については、受診する科で接種済証を提示していただきますので、すでに接種済みでお持ちのかたは無くさないように保管してください。

※2 「手術を受けるかた」、「妊産婦」は検査が必要です。また、12歳未満の児童については主治医が判断します。

(令和3年10月28日時点)

扇田病院です!

理念 地域の皆様の「心の支えとなる病院」をめざします。

外来診療室

地域住民に愛されるよう、 安全・安心な看護を提供します

外来診療室は、総合診療科を柱に、内視鏡検査部門や人間ドック・健診部門、訪問診療・訪問看護部門があります。病院の理念にある『地域の皆様の「心の支え」となる病院』になれるよう患者さんのニーズに幅広く対応しています。診療科にとらわれない医療を提供し、複数の疾患を持つ患者さんや介護施設を利用のかたが診療を受けやすい外来となっています。

当院の特徴である訪問診療・訪問看護部門では、病院から在宅へ切れ目のない医療・看護の提供に努め、患者さん・ご家族が住み慣れたご自宅で安心して過ごせるように24時間の対応を行っています。



また、日中お仕事などで通院できないかたが治療を継続できるように、週2回、17時から「夕やけ診療」を行っています。これからの時期はインフルエンザ予防接種等で多数のかたにご利用頂いております。

当外来も新型コロナウイルスの影響があり、発熱外来やワクチンの個別接種等、役割は拡大しています。そのような中でも地域の皆様に適切な医療と安心を届けられるようスタッフ一同努力してまいります。

扇田病院の「オンライン面会」について

患者さんのご家族を対象に無料通信アプリ「SkyPhone」を使用してオンライン面会を行っています。ぜひご利用ください。

オンライン面会 (予約制)

平日(土・日、祝日を除く) 14:00から16:00まで

患者さん1名につき10分以内、月2回までです。そのほか詳細はお問い合わせください。

【申し込み・お問い合わせ】 大館市立扇田病院：電話 0186-55-1255
受付時間：平日9:00から15:00まで

扇田病院 外来診療のご案内

曜日	月	火	水	木	金	備考
科名	受付時間 8:30~11:00		総合診療科新患と眼科は下記のとおり			
総合診療科	新患10:30まで (夕やけ)	新患10:30まで	新患10:30まで	新患10:30まで (夕やけ)	新患10:30まで	午後：急患のみ(現在通院中の患者さんに限り) 夕やけ診療(月・木):17:00~18:30 (現在通院中の患者さんに限り)
整形外科	休診	休診	休診	休診		
耳鼻咽喉科	休診	休診	休診	休診		
眼科	8:30~10:30			※原則第1、第3土曜日		詳細は扇田病院ホームページまたは電話でご確認ください。

(お詫び) 病院だより第34号・扇田病院の医師紹介の記事において、総合診療科の麓 耕平 医師の氏名の記載漏れがありました。訂正してお詫び申し上げます。

総合病院 外来診療のご案内

急患対応や手術などのため、休診や受付時間を変更する場合があります。

- ◎新患（初めて当院を受診されるかた）はできるだけ紹介状（医療機関から発行される診療情報提供書）の持参をお願いしています。
- ◎新患で紹介状を持参されない場合、初診時の保険外併用療養費として、1,650円を負担していただいておりますのでご了承願います。
- ◎新患の予約およびお問い合わせは、患者サポートセンター（代表電話 42-5370 月～金 8：30～17：15）までご相談ください。

は予約が必要です。

受付時間 新患 8:30～11:00 再来 7:30～11:00

総合病院では、新医療情報システムの運用を開始しました。このため、外来診療や会計窓口でお待ちいただく時間が長くなる場合があります。受診される患者さんにはご迷惑をおかけしますが、ご了承いただきまますようお願い申し上げます。

※特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名		曜日	月	火	水	木	金	備考	
呼吸器・循環器内科	呼吸器	新患						新患は原則として紹介状と予約が必要です ※受け入れ制限があります。	
		再来							
	循環器	新患							新患は原則として紹介状と予約（前日16時まで、月曜日の場合は金曜日）が必要です。
		再来							
消化器・血液・腫瘍内科								新患は原則として紹介状が必要です。	
内分泌・代謝・神経内科	新患	10:30まで	甲状腺外来	10:30まで	10:30まで	甲状腺外来	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。 ※甲状腺外来の新患は、予約が必要です。 ※神経内科は新患、再来とも予約（前日16時まで、月曜日の場合は金曜日）が必要です。
	再来						10:00まで		
小児科									
神経精神科	新患			休診	休診			新患は原則として紹介状と予約が必要です。 ※認知症の相談は、認知症疾患医療センター（代表42-5370）にお電話ください。	
	再来								
外科									
呼吸器外科	新患	10:00まで	10:00まで	10:00まで	10:00まで	10:00まで	10:00まで	新患の受付は10時までとなります。	
	再来								
産婦人科									
眼科	新患	9:30まで	休診	9:30まで	休診	9:30まで	9:30まで	新患は原則として紹介状と予約が必要です。	
	再来								
耳鼻咽喉科									
整形外科	新患	10:00まで	休診	10:00まで	10:00まで	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状が必要です。 専門外来は予約が必要です。	
	再来								
泌尿器科	新患	休診	休診	10:00まで	10:00まで	休診	休診	新患は原則として紹介状が必要です。 新患、再来ともに予約が必要です。	
	再来								
皮膚科			10:00まで	10:00まで	休診	10:00まで	10:00まで		
脳神経外科	新患	10:30まで	10:30まで	10:30まで	10:30まで	10:30まで	10:30まで	新患は原則として紹介状と予約が必要です。	
	再来								
放射線科								新患は原則として紹介状と予約が必要です。 再来も予約が必要です。	
歯科口腔外科 矯正歯科	新患	10:00まで	10:00まで	矯正歯科	10:00まで	10:00まで	10:00まで	新患は原則として紹介状と予約が必要です。 再来も予約が必要です。	
	再来								

上記の表は11月中旬の情報をもとに作成していますが、診療体制の変更に伴い受付時間などが変更となる場合がありますのであらかじめご了承願います。また、変更があった場合は院内への掲示とホームページへ掲載いたします。



検査のはなし

～輸血と検査～

この記事をご覧になっているみなさんの中で、ご自分の血液型をご存じないかたはかなり少ないのではないのでしょうか。日本では大多数の方が自分の血液型を把握していますが、これは東アジア特有の文化といわれており、特に欧米では自分の血液型を知らないかたがたくさんいるそうです。血液型を知らなくても困ることはないのか？と疑問に思われるかもしれませんが、実はほとんどのかたにとって「血液型は輸血をするまで知らなくて良い情報」であるといえます。小学生の名札には血液型を記入する欄があり、いかにも「事故にあって輸血が必要になったときに役立つ」かのような印象を持たれるかもしれません。



ともありません。

しかし、医療機関ではこの情報をもとに輸血を行うことはありません。もちろん患者さんの自己申告による血液型を鵜呑みにして輸血する血液製剤を選択することもありません。万が一、不適切な血液型の製剤が輸血されてしまうと体内で血球が壊されてしまい命に関わるような重篤な副作用が起こってしまいます。薬と同じように輸血にも少なからずアレルギー反応などの副作用が起こることはありますが、輸血を受けるかたに合った適切な輸血療法が行われていれば、副作用が起こる可能性を最小限に抑えることができます。

輸血を行う際には、必ずその医療機関で、血液型検査や必要とされるいくつかの検査を行ったうえで、安全に輸血する事ができる血

液製剤を選択します。さらに患者さんや製剤の取り違い等の人為的ミスを回避するため、電子カルテシステムを用いた電子的認証方法を用いるなど、いくつかの手順を踏んで患者さんに輸血されることとなります。

しかしこういった安全な輸血医療に対する取り組みは、各医療機関の自主性に任されているのが現状です。日常行われるすべての輸血の安全を保証するためにも、適切な管理が行われているか否かの外部評価が必要となります。

そこで総合病院では、日本輸血・細胞治療学会が定める「**輸血機能評価認定(以下 I & A) 制度**」の認定を取得しています。I & Aを取得しているということは、血液製剤などの徹底した適性使用や輸血検査の安全性について専門の第三者に保証してもらっているということです。

現在、県内には I & A 認定施設が5施設しかなく、当院は県北地域で唯一の認定施設となっています。今後も I & A 認定を更新し、安全な輸血医療を提供していけるよう努めてまいります。



【I & Aのシンボルマーク】



編集後記

コロナで窮屈な日常が続いており、なるべくコロナ以外の記事も盛り込むようお願いしていますが、どうしてもコロナの話題が中心になってしまいます。編集後記も結局ポストコロナの話になりました。大人は今年できなかったことは来年に伸ばすことができますが、子どもたちは修学旅行、受験など今年でなければできないことがあります。研修医の初期研修も同様に2年間でできる限り多くのことを

学ばなければならない大事な時期です。当院では総合診療科、三次救急など他病院の協力を仰ぎながら研修プログラムを組んでいます。厳重に健康管理の上、今年ではできるかぎり研修先に行ってもらおうようにしています。コロナ禍の厳しい研修環境の中にあっても、医療の質は落とすことのないようにしたいと思っています。

(編集委員長 [臨床研修センター長] 丹代 諭)